

早期英語教育の展開 (8)

認識論からみた早期英語教育

立花希一・芳賀 純

言語の機能

今世紀最大の科学哲学者の1人、Popper (1963) は、Bühlerの言語の三機能説、1) 表出的機能 2) 喚起的または伝達的機能 3) 叙述的機能に、4番目として論証的機能を加え、1と2の機能は、動物言語にもみられる低次機能だが、3と4の機能は、人間言語にのみ特徴的な高次機能だという。というのは、より高次の機能には、より低次の機能が伴うが、その逆は言えないからである。たとえば、車にひかれそうな子供に対する「車だ」という発話は、現前する事態を叙述する叙述的機能をもった言葉だが、それだけではなく、発話者の恐怖心も表出しているし、聴取者によけさせるなどの反応を喚起する機能も同時に果たしている。一方、「あっ」と叫ぶだけの発話には、表出的機能だけか、もし聴取者に何らかの反応を引き起こすならば喚起的機能も存すると考えられるが、叙述的機能は果たしていない。

行動主義的説明の問題点

ところが、行動主義者の多くは、高次機能の有無にかかわらず、低次機能が常に存在することから、3と4の高次機能は、1と2の低次機能の特殊な場合にほかならないと考える。すべての言語現象を、条件反射や刺激-反応の方法で学習しうる低次機能についての表現理論や伝達理論で説明しようとするのである。しかし、叙述的機能の中で最もプリミティブな命名行為すら、条件反射や刺激-反応の方法では学習不可能なのである。Piagetのいう感覚運動的知能の1つ、対象永続性の概念を少なくとももっていなければならないし、一義的な刺激に対する一義的な

反応という物理因果的な束縛のない意識的、意図的行為でなければ、命名行為とはいえないからである。

それでもなお、3と4の機能を無視するならば、人間言語というものを理解していないといえよう。子供に教えるからといって、低次の動物言語を教えるだけでいいはずはない。生理的欲求など生存に関わることを伝達する手段として言語を用いることなら、動物にもできる。科学や文学などの活動において、生存の目的とは独立した真理や美を追求できるのは人間だけである。真理や美の概念は、叙述言明の真、偽や言葉の美しさに関わるものだから、対象言語ではなく、メタ言語に属し、したがって論証的機能をもつ。Popperは認識論者として、世界で生起する事態を叙述し、説明する言明(科学理論)の真、偽を合理的に判定する方法を提唱し、さらに、人間が動物とは違って、暴力ではなく、言論によって問題解決を図るという合理的な方法を見出したことは、「理性的勝利」だと賛美する。この理想に近づくためには、できるだけ多くの人間が論証的機能をもてるようにならなければならない。また、論証的機能を用いることができるようになってはじめて、言語自体、たとえば言語の規則(文法)を意識的に対象化し、それに関する明確な知識をもつことができるようになる。したがって、この段階までこないと、言語を完全に身につけたことにならないので、それ以前に学習をやめてしまうと、忘れるのが早いのであろう。

子どもの言語学習

子どもは、動物としてではなく人間として生きなければならないのだから、高次の叙述的機能、論証的機

能を果たす手段として言語を用いることができるようになるまで学習する必要がある。

Sinclair (1975) は、Piagetの認識論に立って、知能の発達言語なしでも可能だが、言語習得は知能の発達に依存すると述べている。だとすれば、言語の論証的機能は、知能の発達段階の最後に置かれている、Piagetの用語による形式的操作期(ほぼ11歳から15歳まで)にならないと学習されないということになる。子どもが高次機能および文法を論証的機能も含めて学習するためには、その学習は11歳以上まで少なくとも継続していなければならないのである。

しかし、段階を踏まずに始めから高次機能を習得させようとしても無理である。まず、自己表現や伝達的手段として言語を用いることを習得する必要がある。これらの低次機能は、形式的操作期以前の知能発達段階で学習することが可能であるばかりか、知能が進みすぎると低次機能には興味を示さなくなり、逆に習得が困難になることが多いので、知能の年齢的発達段階に応じて学習する必要がある。

前田の体験報告(1964)によると、フランスで生活した4人の兄弟(本人は除く)について、0歳から2歳まで滞在した弟と2歳から5歳までいた妹は、現地ではフランス語を話していたが、帰国してからは完全に忘れ、7歳から10歳までいた妹は、発音だけは良く残っているが、読む面は退歩し、9歳から12歳までいた妹が一番能率よく習得できたという。

(参考文献)

前田陽一「将来あるべき外国語教育—私の体験から—」『英語教育』1964年9月号。

K.R. Popper, "Conjectures and Refutations" 1963.

H. Sinclair, "The Role of Cognitive Structures in Language Acquisitions" 'Foundations of Language Development' E.H. Lenneberg & E. Lenneberg, 1975. (筑波大学)